

科目名	人間関係とコミュニケーション(後期/通年)					
科目名(英)	Human Relation and Communication					
単位数	4	時間数	60	担当者	亀田 尚	
実施年度	2020年度	実施時期	(後期/通年)	担当者実務経験	障害者施設 支援院 7年間	
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年生					
授業概要	介護福祉士の国家資格取得のための要請科目の一つであり、対人援助職の最も基本となる人間関係とコミュニケーションについて基本的なことを学ぶ基礎科目である。特に、近年介護現場で重視されている多職種連携・チームケアマネジメントについて、その理論・方法・実際について具体的に学んでいく。					
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	
					実技:	
					※ 主たる方法:	○ その他: △
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					人間関係の基本となる知識や理論をできるようにする。
				○		他者と協力したり、コミュニケーションを円滑に図れるようになる。
	○	○				チームケアマネジメントに関する理論と知識を理解できるようにする。
	○	○		○		チームケアマネジメントを実践する能力を習得できるようにする。
テキスト・教材 参考図書	『最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解』中央法規					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	オリエンテーション				
	2	ヒューマンサービスとしての介護サービス				
	3	介護現場で求められるチームマネジメント				
	4	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み				
	5	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み				
	6	チームでケアを展開するためのマネジメント				
	7	チームの力を最大化するためのマネジメント				
	8	介護福祉職のキャリアと求められる実践力				
	9	介護福祉職としてのキャリアデザイン				
	10	介護福祉職のキャリア支援・開発				
	11	自己研鑽に必要な姿勢				
	12	介護サービスを支える組織の構造				
	13	介護サービスを支える組織の機能と役割				
	14	介護サービスを支える組織の管理				
15	総まとめ					
評価方法	定期試験を実施する。その他、授業内の取り組み等も加味する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	定期試験(後期)	◎	◎			80%
	小テスト					
	宿題・レポート					
	発表・作品	○	○		◎	○
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を取得することができない。					

科目名		保健体育・レクリエーション(後期)						
科目名(英)								
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	波多江磨里子			
実施年度	2020年	実施時期	通年(後期)	担当者実務経験	レクリエーションインストラクター			
対象学科・学年		ソーシャルワーカー科1年						
授業概要		人間は「自分らしく、より心地よく生きていきたい」と願う生き物である。その「願い」を実現するための『援助者』として、保健体育やレクリエーションの意義・役割を理解し、知識を学び、被援助者に適切な保健体育・レクリエーションの機会を提供することができるよう 事前評価一計画一実施一再評価の方法や、活動分析、アクティビティのアレンジについて知る。						
授業形式		講義: ○	演習: △	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)		目標						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	保健体育やレクリエーションが特定の人や時間に限定されるのではなく人権であることを知る。	
		○	○		○		人によって異なる心や体の課題を理解し、個人々人に対し利用者分析を行うことができる。	
		○	○	○	○		個人への事前評価を基に、利用者の課題解決に向けた援助行動ができる。	
		○	○	○	○		集団も個人の集まりであることを理解し、生活の快を追求するための集団援助ができる。	
		○	○		○		身の回りにある保健体育・レクリエーションのための社会資源を10以上あげることができる。	
テキスト・教材 参考図書		楽しさをおとした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法						
授業計画		回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
		1	レクリエーション支援の方法1-1 信頼づくりの方法			テキストの該当範囲を読んでおく。		
		2	レクリエーション支援の方法1-2 ホスピタリティとは			テキストの該当範囲を読んでおく		
		3	レクリエーション支援の方法2-1 アイスブレイキング			テキストの該当範囲を読んでおく。		
		4	レクリエーション支援の方法2-2 良好な集団づくりの方法			テキストの該当範囲を読んでおく		
		5	レクリエーション支援の方法3-1 目標設定の方法			テキストの該当範囲を読んでおく		
		6	レクリエーション支援の方法3-2 活動分析			テキストの該当範囲を読んでおく		
		7	レクリエーション支援の方法3-3 基本のアレンジ方法			テキストの該当範囲を読んでおく		
		8	レクリエーション支援の方法3-4 CSSプロセス			テキストの該当範囲を読んでおく		
		9	レクリエーション活動の習得 個人援助			個人援助について考察し、素材・活動・アクティビティを調べておく		
		10	レクリエーション活動の習得 卓上療法/脳トレ			脳トレという視点での素材・活動・アクティビティを調べておく		
		11	レクリエーション活動の習得 歌・音楽にあわせた身体活動			歌・音楽に合わせた動き・動作を4つ考えておく		
		12	レクリエーション支援プログラムの立案 APIEプロセスを踏まえて			今まで学んだレクリエーションの考え方について復習しておく		
		13	レクリエーション支援プログラムの立案方法			アイスブレイキングのプログラミングの部分を十分に復習しておく		
		14	レクリエーション支援プログラムの立案			対象、場面、状況など細かい設定をあらかじめ考えておく		
		15	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する。		
		16	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する。		
		17	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する。		
		18	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する。		
		19	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する。		
		20	レクリエーション支援の実施 総合演習			振り返り(評価)シートを完成する。		
評価方法		定期試験を実施する。60点未満は再試。なお出席が2/3に満たない場合は定期試験は受けられない。/ 成績評価基準はA(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下) /実技・演習・グループワークの意欲・参画態度も考慮し前後期総合的に評価します。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		筆記試験(前期)	◎	◎				70%
		実技試験(後期)		◎		○		70%
		小テスト	○	◎				10%
		宿題・レポート	○	◎		○		10%
		発表・作品	◎	◎		○		10%
履修上の注意		出席が2/3に満たない者は 評価対象外とする。 / 実技・演習・グループワーク等に積極的に参画していない場合は減点の対象になります/ 調べたり考察が必要な宿題もあります。前向きに努力してください。						

科目名	介護概論(後期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田上 美里		
実施年度	2020年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	病院で介護職として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年生						
授業概要	介護福祉の専門性と倫理を理解する。ICFの視点にもとづくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法について理解し、習得する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護福祉士の倫理綱領を理解する。	
	○					自立支援とは何かを理解し、ICFの考え方を理解する。	
		○				自立支援とリハビリテーションについて理解する。	
		○				自立支援と介護予防について理解する。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 3 -介護の基本 I 介護福祉士国試ナビ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	16	介護福祉士の倫理 介護実践における倫理				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	17	介護福祉士の倫理 介護福祉士会倫理綱領				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	18	介護福祉士の倫理 介護福祉士会倫理綱領				授業内容に係わる確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	19	利用者の尊厳を保持した倫理的介護実践				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	20	自立支援の考え方 自立支援とは?				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	21	自立支援の考え方 自立支援とは?				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	22	ICFの考え方				授業内容に係わる確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	23	介護におけるICFのとらえ方				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	24	自立支援とリハビリテーション				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	25	リハビリテーションとは				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	26	リハビリテーションにおける介護福祉士の役割				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	27	自立支援と介護予防				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
	28	介護予防の概要				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと	
29	高齢者の身体特性と介護予防				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
30	介護予防における介護福祉士の役割				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護福祉各論(後期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	田上 美里		
実施年度	2020年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	病院にて介護職として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 ・ 1年生						
授業概要	多職種が連携する必要性や、多職種の役割を学び多職種連携について理解する。 介護従事者自身が心身ともに健康に介護の仕事を実践できるように健康管理や労働環境について理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					多職種連携・協働について理解する。	
	○					保健・医療・福祉職の役割と機能について理解する。	
	○	○				介護従事者健康管理と意義について理解する。	
	○					労働環境の整備について理解する。	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座 4 -介護の基本II						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	多職種連携・協働の必要性			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	2	多職種連携・協働の必要性			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	3	多職種連携・協働に求められる基本的な能力			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	4	多職種連携・協働に求められる基本的な能力			授業内容に係わる確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	5	多職種連携・協働に求められる基本的な能力			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	6	保健・医療・福祉職の役割と機能			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	7	保健・医療・福祉職の役割と機能			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	8	多職種連携・協働の実際			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	9	多職種連携・協働の実際			授業内容に係わる確認テストを実施するので、復習しておくこと		
	10	健康管理の意義と目的			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	11	こころの健康管理			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	12	身体の健康管理			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	13	労働環境の整備			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと		
	14	労働環境の整備			授業内容に係わる確認テストを実施するので、復習しておくこと		
15	労働環境の整備			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。(2)定期試験の(筆記)を実施する。(3)グループワーク実施時の参加状況以上を下記の割合で評価する 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	◎	◎				5%
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%
	発表・作品				◎		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術・基本 I (後期/通年)						
科目名(英)	Life support technology Basic I						
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	案納/吉水/平山/豆田		
実施年度	2020年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	NS(病院)/CW(特養)/CW(老健)/CW(病院)		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。						
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	実技:	○ ※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				生活を支えるということがどのようなことかを説明することができる。	
	○	○				対象者に必要な支援・援助の方法を選択でき、介助することができる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術 I 中央法規 最新 介護福祉士養成講座 7. 生活支援技術 II 中央法規 見て覚える! 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	31	入浴・清潔保持(吉水)清潔保持の基本				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	32	入浴・清潔保持(吉水)清拭の目的と方法				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	33	入浴・清潔保持(吉水)入浴の目的と方法と留意事項				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	34	入浴・清潔保持(吉水)演習 清拭				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	35	入浴・清潔保持(吉水)演習 清拭				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	36	入浴・清潔保持(吉水)演習 機械浴・一般浴				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	37	足浴(豆田)/部分入浴の基礎的理解				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	38	足浴(豆田)演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	39	足浴(豆田)演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	40	自立に向けた排泄の介護(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	41	排尿障害、排便障害、さまざまな介助(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	42	排泄介助(平山)ポータブルトイレ演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	43	排泄介助(平山)ポータブルトイレ演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
	44	排泄介助(平山)おむつ演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)	
45	排泄介助(平山)おむつ演習				授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること(2時間)		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)演習後演習記録の提出をする。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				90%
	小テスト						
	宿題・レポート		◎	○	○		10%
	発表・作品						
履修上の注意	出席が3分の2に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	生活支援技術・応用						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	案納／平山／豆田		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	NS(病院)／CW(老健)／CW(病院)		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー1年						
授業概要	各疾患の医学的理解・心理的理解を基とし、障害の状態に応じた介護支援の展開を行えるようになる。また、利用者ニーズに対応した具体的な支援方法についても学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				各疾患・障害の概要と特徴的な症状について説明できる。	
	○	○				各疾患・障害の特有の生活の困難について説明できる。	
	○	○	○			各疾患・障害に応じた生活支援技術の展開方法を選択し、生活支援技術基本の内容を応用できる。	
テキスト・教材 参考図書	最新 介護福祉士養成講座 8. 生活支援技術 I 中央法規 見て覚える！ 介護福祉士国試ナビ2019 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	視覚障害／視覚障害の理解、生活上の困りごと(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	2	視覚障害／視覚障害者体験(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	3	視覚障害／まとめ(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	4	聴覚・言語障害／聴覚障害の理解、生活上の困りごと(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	5	聴覚・言語障害／言語障害の理解、生活上の困りごと(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	6	聴覚・言語障害／まとめ(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	7	重複障害／盲ろう重複障害の理解、生活上の困りごと(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	8	重複障害／まとめ(平山)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	9	内部障害(膀胱・直腸障害のある人)に応じた介護医学的理解と心理的理解(案納)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	10	内部障害(膀胱障害:膀胱がん等)に応じた留置カテーテルでの日常生活の支援・介護について(案納)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	11	内部障害(直腸障害:大腸がん等)に応じた日常生活の支援・介護について(案納)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	12	内部障害(直腸障害のある人)のストーマケアの日常生活支援・介護について(案納)				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	13	高次脳機能障害(豆田)/医学的理解				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
	14	高次脳機能障害(豆田)/生活の視点で考える				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)	
15	高次脳機能障害(豆田)/具体的支援の展開				教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと(1時間)		
評価方法	定期試験(筆記)を実施・評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護過程総論						
科目名(英)	General care process						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	平山 恵子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	介護老人保健施設で介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	①介護過程の意義を理解し、生活支援の課題や目標をとらえることができる。 ②他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開することができる。 ③介護計画の立案により、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					介護過程の意義、目的を説明できるようになる	
	○					介護過程の展開を行うことができる。	
	○	△				個々に合った介護過程を展開できるようになる。	
	○					チームアプローチの重要性を認識できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規「介護過程」 中央法規「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	介護過程とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	介護過程とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	生活支援における介護過程の必要性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	生活支援における介護過程の必要性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	介護過程の展開				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	アセスメント(情報収集)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	介護過程の立案				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	介護の実施				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	評価				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	介護過程の実践的展開				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	「介護過程」展開の実際				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	介護過程とケアマネジメントの関係性				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	チームアプローチにおける介護福祉士の役割				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
15	まとめ、試験対策				定期試験に向け、復習しておくこと		
評価方法	定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護過程各論 I						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60	担当者	豆田和也・案納賀世子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	CW(病院)／NS(病院)		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年生						
授業概要	事例・実習を通して、個々になった介護過程の展開ができるようになる						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習: △	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		介護過程の意義を理解し、生活支援の課題や目標をとらえることができる	
	○	○		○		生活場面の身近な事例を通して、介護過程を理解する。	
	○	○		○		介護実践場面の事例を通して介護過程の実際を知る	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション					
	2	実習 I Bでの情報収集の方法			課題提出		
	3	情報収集の振り返り			課題提出		
	4	情報収集の振り返り			課題提出		
	5	ボランティア実習の準備			課題提出		
	6	ボランティア実習			課題提出		
	7	ボランティア実習			課題提出		
	8	ボランティア実習			課題提出		
	9	ボランティア実習			課題提出		
	10	情報シートのまとめ			課題提出		
	11	アセスメントの視点			課題提出		
	12	アセスメントの視点			課題提出		
	13	フェイスシートの作成			課題提出		
	14	フェイスシートの作成			課題提出		
15	フェイスシートの作成			課題提出			
評価方法	(1)フェイスシート・状況シート・個別援助計画の作成・提出 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題	○	○		○		70%
	授業態度				○		30%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	介護総合演習 I (後期/通年)						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	吉水 美穂		
実施年度	2020年度	実施時期	前期/通年	担当者実務経験	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	授業の中で介護過程の展開方法を理解したうえで、実習事例体験を通して、個々に合った介護過程の展開ができるようになる。さらに、実習後個別のケースに対して事例研究を行い、事例検討の方法を習得する。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			実技試験に4回目までに合格できる	
				○		すべてに出席できる	
	○	○				実習中及び前後の提出物が期限通りに提出できる	
				○		授業態度	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	16	実習先発表、自己紹介表記入					
	17	調べ学習					
	18	目標設定					
	19	日誌下書き					
	20	日誌清書					
	21	実習内容					
	22	実習の決まりごと確認					
	23	プロセスレコード、カンファレンスレポート記入方法					
	24	実習前審査リハーサル					
	25	事前挨拶／実習前審査					
	26	事前挨拶／実習前審査					
	27	お礼状/申し送り簿記入					
	28	報告会準備					
	29	実習報告会					
30	実習報告会						
評価方法	1、実技試験に4回目までに合格できる 2、実習関係書類の提出期限が守られること 3、授業に出席していること 4、授業で説明されたことを理解し、自ら考え、主体的に取り組んでいく姿勢がある 以上4つの視点で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○				20%
	実技試験			◎	◎		80%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	保健医療サービス								
科目名(英)									
単位数	2	時間数	30	担当者	金弘子				
実施年度	2020	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて医師勤務				
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年生								
授業概要	医療保険制度や保健医療サービスについて理解し、その内容を把握した上で、相談援助活動に役立つ知識を身につける								
授業形式	講義:	<input type="radio"/>	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法: <input type="radio"/> その他: <input type="triangle"/>
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標			
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		医療保険のしくみを理解する			
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		医療機関について理解する			
	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		医療専門職について理解する			
テキスト・教材 参考図書	新・社会福祉士養成講座 保険医療サービス								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	オリエンテーション				授業の進め方、学ぶことを共有する			
	2	医療保険のしくみ				医療保険の概略を理解する			
	3	医療保険のしくみ				医療保険の概略を理解する			
	4	国民皆保険制度				国民皆保険制度を理解する			
	5	保険者				医療保険における保険者について理解する			
	6	医療保険の給付				医療保険の給付内容を理解する			
	7	高額療養費制度				高額療養費制度を理解する			
	8	国民医療費				国民医療費について理解する			
	9	国民医療費				国民医療費について理解する			
	10	医療機関の種類				医療機関について理解する			
	11	医療機関の種類				医療機関について理解する			
	12	医療専門職の理解				医療専門職について理解する			
	13	医療専門職の理解				医療専門職について理解する			
	14	医療専門職の理解				医療専門職について理解する			
15	まとめと復習				授業を通じて生じた疑問について質疑応答を行う				
評価方法	(1)宿題、レポートを数回実施する。 (2)定期試験の(筆記)を実施する。 (3)グループワーク実施時の参加状況 以上を下記の観点・割合で評価する。								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	○				80%		
	小テスト	◎	◎				5%		
	宿題・レポート	○	◎		◎		5%		
	発表・作品				◎		10%		
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。								

科目名	認知症の理解(後期/通年)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	豆田和也		
実施年度	2020年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	病院にて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年生						
授業概要	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		認知症の定義・全体像について理解し説明できる	
	○	○		○		認知症の症状・原因疾患について理解し鑑別することができる	
	○	○		○		認知症の人の現状と課題について知り、考えを述べることができる	
	○	○		○		認知症ケアの実際について具体的な方法と留意点について言うことができる	
	○	○		○		認知症の人の地域生活支援の具体的な方法について述べることができる	
テキスト・教材 参考図書	・中央法規出版 介護福祉士養成講座13 認知症の理解						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	16	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 前期内容の振り返り			小テスト(前期の内容)を実施するので勉強しておくこと		
	17	認知症を取り巻く状況			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	18	認知症ケアの理念と視点・認知症当事者の視点から考える			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	19	認知症ケアの実際① パーソンセンタードケア			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	20	認知症ケアの実際② アセスメントの方法の実際			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	21	認知症の人への様々なアプローチ①			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	22	認知症の人への様々なアプローチ②			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	23	認知症の人の終末期医療と介護			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	24	認知症の人の生活環境			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	25	介護者支援 家族の支援			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	26	認知症の人の地域生活支援 新オレンジプラン			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	27	認知症の人の地域生活支援 地域連携体系			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
	28	認知症の人の地域生活支援 事例検討会			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと		
29	認知症の人の地域生活支援 事例検討会			小テスト(前回の振り返りと予習範囲)を実施するので勉強しておくこと			
30	認知症ケアの実際のまとめ			後期まとめテストを実施するので勉強しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを毎回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				85%
	小テスト	◎	◎				10%
	出席率				◎		5%
履修上の注意	出席が前後期合算で20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	からだのしくみ I (後期/通年)						
科目名(英)	Body structure and function						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	山下 和美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	看護師として医療機関にて勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー 1年						
授業概要	介護現場の中核として存在する介護福祉士の専門性のひとつに、利用者個々人の心身の状態に応じたケアを行うことが挙げられる。この授業では、個別ケアの中核をなす『介護過程(総論・各論)』において、身体構造・心身機能をアセスメントするために必要な医学知識を学ぶ。また、『障害の理解』『生活支援技術(基本・応用)』に関連するところやからだのしくみを理解して、全人的なケアを提供する際に必要な知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○					生活支援技術の根拠となる人体の構造・機能と、関連した疾患や障害の概要を説明することができる。	
	○					疾患・障害に対応するために、医療職との連携・協力の重要性を説明することができる。	
	○					介護サービスの提供における安全への留意点を説明することができる。	
		○				利用者の様子から、からだの状態変化に気づく観察の視点へと応用することができる。	
			○			利用者のもつ身体的、心理的、社会的側面について配慮し、ケアの際に実践することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央法規出版 最新介護福祉士養成講座11 - こころとからだのしくみ 中央法規出版 見て覚える！介護福祉士国試ナビ2020 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	16	移動に関連したところとからだのしくみ ①移動の意義・目的とからだのしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	17	移動に関連したところとからだのしくみ ②心身の機能低下が移動に及ぼす影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	18	移動に関連したところとからだのしくみ ③変化の気づきと対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	19	身じたくに関連したところとからだのしくみ ①身じたくの意義・目的			・前単元の復習をしておく(確認テスト) ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	20	身じたくに関連したところとからだのしくみ ②からだのしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	21	身じたくに関連したところとからだのしくみ ③心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	22	身じたくに関連したところとからだのしくみ ④変化の気づきと対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	23	食事に関連したところとからだのしくみ ①食事の意義・目的とからだのしくみ			・前単元の復習をしておく(確認テスト) ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	24	食事に関連したところとからだのしくみ ②心身の機能低下が食事に及ぼす影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	25	食事に関連したところとからだのしくみ ③変化の気づきと対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	26	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ ①入浴・清潔保持の意義・目的			・前単元の復習をしておく(確認テスト) ・教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	27	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ ②からだのしくみ			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	28	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ ③心身の機能低下が及ぼす影響			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
29	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ ④変化の気づきと対応			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと			
30	学習のまとめと後期試験対策			前単元の復習をしておく(確認テスト)			
評価方法	後期授業の終了後に定期試験(筆記)を実施する。 総合評価の際には以下の評価を加えて評価する。 (1)授業の中で確認テストを4回実施する。(2)宿題・レポートを数回実施する。(3)授業の中での討議・発表を行う。 上記の(1)(2)(3)については下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	○				10%
	宿題・レポート	○	○		◎		5%
討議・発表	○	○		◎		5%	
履修上の注意	欠席が11回になった場合、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名		社会福祉援助技術論 I (通年/後期)					
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	前田浩明		
実施年度	2020年度	実施時期	(後期/通年)	実務家教員 担当科目	社会福祉協議会に 社会福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年生						
授業概要	社会福祉士・ソーシャルワーカーの役割・意義やソーシャルワークの概念、特にエンパワメント、ソーシャル・インクルージョン等に関して、またソーシャルワークの形成・発展史についても理解を深める。加えて、ソーシャルワークの価値・倫理・知識・技術を軸として、総合的かつ包括的な援助、権利擁護等を理解する。講義終盤は、貧困問題や生活保護問題等にも触れ、ソーシャルワーカーに求められる新たな社会的役割や求められる人権感覚を涵養する。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					ソーシャルワーカーの倫理と価値を理解できる	
	○	△				ソーシャルワーカーの方法と技術を理解できる	
	○					日本のソーシャルワーク発展の歴史を理解できる	
	○					総合的かつ包括的な援助と多職種連携の重要性を理解できる	
テキスト・教材 参考図書	ソーシャルワーク ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	講義予定とオリエンテーション NHKドラマ10 サイレント・ブア第1話視聴				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	2	ソーシャルワークの価値・倫理① ～「価値」とは何か～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	3	ソーシャルワークの価値・倫理② ～ソーシャルワークの価値・倫理綱領&福祉の現場リアル～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	4	ソーシャルワークの価値・倫理③ ～ソーシャルワークの価値・倫理綱領&福祉の現場リアル～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	5	日本におけるソーシャルワークの歴史的展開① ～仏教と救済、明治・大正期～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	6	日本におけるソーシャルワークの歴史的展開② ～戦後から現在～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	7	ソーシャルワークの方法と技術①				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	8	ソーシャルワークの方法と技術②				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	9	ソーシャルワークと権利擁護				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	10	NHKプロフェッショナル～仕事の流儀 ～地域の絆で、“無縁”を包む CSW勝部麗子				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	11	総合的かつ包括的な援助と他職種連携① ～地域を基盤としたソーシャルワーク～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	12	総合的かつ包括的な援助と他職種連携② ～地域を基盤としたソーシャルワーク～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	13	精神保健福祉士の意義と役割 ～精神障害者福祉の現状と課題～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
	14	福祉の現場リアル ～ホームレス支援の現場 FW予定～				テキストの該当部分を読んでおくこと	
15	福祉の現場リアル ～ホームレス支援の現場 FW予定～				テキストの該当部分を読んでおくこと		
評価方法	期末試験を実施する。 出席回数。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
	小テスト						
	宿題・レポート						
発表・作品				◎		20%	
履修上の注意	出席が2/3に満たない場合評価対象外とする。						

科目名	実習 I B						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	80	担当者	吉水 美穂		
実施年度	2020	実施時期	後期	担当者実務経験	特別養護老人ホームにて介護福祉士として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科 1年						
授業概要	個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチーム委員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			コミュニケーション技術を活用した利用者との関りが実践できる	
			○	○		利用者を中止としたチームケアや多職種協働の方法について学ぶことができる	
		○	○			学校で学んだ生活支援技術が応用されている場面を見学し根拠を説明できる。	
		○		○		多角的に利用者の情報収集を行い、利用者理解を深めることができる	
			○			計画的に実習の課題に取り組むことができる。	
テキスト・教材 参考図書	実習要項・記録						
授業計画	日数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	利用者の名前を覚え、1日の流れを知る				日々の実習記録の記載	
	2	職員や利用者との関りを通して、利用者の特徴を理解する				日々の実習記録の記載	
	3	利用者自ら積極的にコミュニケーションを図ることができる				日々の実習記録の記載	
	4	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する				日々の実習記録の記載	
	5	1週間の学びや職員への質問を通して施設の概要を理解する				日々の実習記録の記載・プロセスレコードの記載	
	6	利用者の思いを引き出すためにコミュニケーションを実践する				日々の実習記録の記載	
	7	利用者とのコミュニケーションから情報収集を行う				日々の実習記録の記載	
	8	他専門職から得られる情報を収集し情報シートを仕上げる				日々の実習記録の記載	
	9	印象に残った関りをプロセスレコードに記載				日々の実習記録の記載	
	10	最終カンファレンスを開催し、自身の振り返りを行う				日々の実習記録の記載・カンファレンスレポート提出	
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	実習要項にある評価表について下記の尺度で評価。A自分で行動できる B一度指導されれば、行動することができる Cその都度指導されれば行動できる D再三にわたり指導されても行動できない。問題行動危険行為がある。 施設評価80% 担当教員評価20% 総合評価がDの場合は再実習						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
	実習態度		○	○	○		50
	記録提出		○	○	○		50
履修上の注意	実習は100%の出席のみ評価の対象となる。						

科目名	障害の理解(後期/通年)						
科目名(英)	Understanding of Disorders						
単位数	4	時間数	60	担当者	田中優子		
実施年度	2020	実施時期	後期/通年	担当者実務経験	病院で看護師として勤務		
対象学科・学年	ソーシャルワーカー科1年						
授業概要	障害の概念や障害者福祉の歴史を踏まえ、障害者支援の基礎となる関係法規や障害者福祉の理念を理解する。障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)の特性について理解し生活上の支援の在り方を学ぶ。障害者やその家族に対する関わり・支援の基礎を理解する。地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。						
授業形式	講義	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					障害者福祉に関する制度や専門用語、公的支援や疾患の概要を理解する	
		○				障害者福祉制度と介護保険制度の共通点と相違点について理解する	
		○				障害別の基礎的理解と特性に応じた支援について理解する	
		○				障害者への社会資源や家族へのサポートのありかたについて理解する	
			○			障害者の個別の事例について考え支援の在り方について意見を述べる事が出来る	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 中央法規出版 介護福祉士養成講座14 - 障害の理解 中央法規出版 見て覚える! 介護福祉士国試ナビ2017 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	知的障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	2	知的障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ ② DVD				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	3	精神障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	4	高次脳機能障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	5	発達障害の特性を理解し支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	6	難病の定義を理解しその特性に合った支援の在り方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	7	難病の定義を理解しその特性に合った支援の在り方を学ぶ DVD				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	8	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること(1時間)	
	9	障害を持った人との関わり ①				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	10	障害を持った人との関わり ②				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	11	地域のサポート体制と社会資源の考え方を学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	12	チームアプローチの在り方、保健医療関係者の職種を理解する				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	13	家族への支援の在り方について学ぶ				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
	14	家族への支援の在り方について学ぶ ② 事例検討				教科書の当該範囲を読んでおく(1時間)	
15	まとめと確認テスト				配布プリントとミニテストを復習すること(1時間)		
評価方法	(1) 毎回ミニテストを行う。(2) 定期テスト(筆記)を実施する。評価はS(90点以上) A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は定期試験の受験資格を与えない。						